



路政春秋

高度國防の完備と道路の整備

「道路の性格」と題し多田基氏が道路の建設のベツクには其の時代の支配的思想が推進力となつて居ると前提しギリシヤ、ローマの古代國家は勿論伊太利、獨逸の近代國家に於ても道路建設に關し其道路の性格を論述せられた。(道路の改良第二十二卷第九號)予は頗る興味を以て通讀したが、頃日本峰雄氏は國防の完璧を期してドイツの自動車化計畫と題する一文を三回に涉り朝日新聞に寄稿せられ、自動車と道路は正に一元化的のものであるかの如く認識せらるるが國防上道路が軍用飛行機の發着場とし

て利用せることは獨逸のヒットラー自動車道に於て顯著なる事例である。予は思ふに將來道路は立體的性格を有するに至るべきものである。道路の發達は資本主義、自由主義、個人主義の思想に依つて進められたが夫が全體主義統制主義の思想の發達に依りて其の支配を受くるに至つたのであるから國家の立場から道路の整備に關しては急速に且廣汎に其建設の計畫を樹て、其の完遂を圖らねばならぬと思はせらるる。(九九)

國土計畫とは

最近政府の施政方針の一として國土計畫が發表せられた。一般國民は非常の關心を

もつて之を觀た、獨逸が更生振興の策として國土計畫を策し、一部の地域が破壊せられても全體として補足し得る用途地域制や農村と都會との遊離を防ぎ人口の分配上大都會を解消する大都會分散制、建築物の規格綠地の規定等衛生の見地からの容積地域制の如き實に良き計畫である。日滿支を一環としての人口分配、國防、政治、經濟、文化等各方面に亘つての綜合的計畫を必要とする所に國土計畫を計畫し之を實行すべきであらう。

交通省に先だつこの

陸運廳か

内閣の官廳事務再編成方針に即し鐵道省では不急不要事務の停止を根幹に、輻湊せる貨客輸道の緩和、重要物資輸送の確保を眼目とし國鐵としての時局的使命達成を狙つて外局として陸運廳を設置し、其内容としては企畫局、監理局、自動車局、運路局交通調整部を以て組織するを目論み、着々

其事涉編成替に邁進して居ると傳へらる。やがて交通省設置の實現を見透しての準備工作か否か。

## 私大學の合併も時局 國策に即應するの一 策なりや

「鐵箒」欄に私立大學合併の意見が載せられて居る。A B生としては中々精細な着眼をして居る。曰く

私立大學を經營するには五十萬圓の供託金を必要とし、一學部を増設することに更に十萬圓の追加となる。全國二十五の私大では千二百萬圓以上の金が遊んでをり、しかも學部の重複してゐるものが相當あつてたとへば「大谷」と「龍谷」とが合併すれば五十萬圓の供託金が浮く、それだけで學内の充實が出来る。

今假に「早稻田」「慶應」を除き「私立東京大學」とでもいふ名稱で統制を行ひ、「中央」を法學部、「明治」を商學部、「日本」

路政春秋

を理工學部、「法政」を政治學部、「專修」を經濟學部、「拓殖」を東亞學部、「東洋國學」を文學部、「上智立教」を宗教學部キリスト科、「大正立正駒澤」を宗教學部佛教科、「日醫慈惠」を醫學部、「慶大」を農學部に各分派すれば七百五十萬圓が浮く。これを十六に按分すれば各校四十六萬圓の内容改善費が出来て圖書館の改造充實も出来れば、汚い教室の机も新調し得る。なほ追加供託金を精算すれば、教室の擴張も出来れば、事務員の優遇法も講じ得られる。

在京私大は結束して、自發統制をしてみては如何、當局としても供託金のみに依存せず、學生をよく出席せしむるやうにしてはどうか。(A B生寄)

## 燃え上らしめよ民族 の血潮を

「散兵壕」に標示あり曰く「幼にしてチャンバラ映畫の勤王志士に胸躍らせ、長じては明治維史の雄渾に血潮を滾らせわれ」

の生を享けることの餘りに遅くこの壯業に參畫し得なかつた脾肉の嘆、この身體小なりと雖も國家の運命轉換に力の限りぶつけ、てその飛躍に貢獻したい。それには時代は既に過去償らしさへも感ずる焦慮の念——われわれが深刻に體驗して來た感情だつた。

然るに大東亞共榮國確立の歴史的大使命達成のため學戰四年、其の間に世界情勢は急轉換を遂げ日獨伊三國同盟締結により我が歴史的使命は世界的規模にまで飛躍するに至つた。それと共に世界新秩序建設を妨害せんとする舊秩序國家群の反擊態勢亦愈々急調となり、我國の前途亦狂瀾亂舞、大危局に直面するに至つた。

この危局を突破すべく著々進行してゐた大政翼賛運動は愈々十二日の發會式を以て具體的發足の第一歩を踏み出すことになつたが、今やこの危局に直面して夢としてしか考へられなかつたわれわれの願望は遂に現實のものとして眼前に展開され、國民の

胸に藏する身を以て國難に殉せんとする烈々たる熱意に如何に火を點じ、燃焼し續けさせるか今後の問題として殘されてゐる。

今回の運動が下から盛上る國民の舉國の意志によつてスタートしたものでないだけに、此内在する民族の血潮に一樣に點火し燃焼を續けさして行くには未だ幾多の努力が必要だ。燃えたがつてゐるものを燃えしめよ、それ迄は新體制は本當の新體制とは云ひ難いのだ御尤もの言である。

### 第二次歐洲戦争から何を學ぶか

第二次歐洲戦争から何を學ぶか、多數人類の生命と人類がこれまで汝々として築き上げて來た所の富と文化とが地球上到る所で大規模に破壊されておる、此悲惨な儼肅なる現實に直面してわれ等何の爲に生くるやといふことを深刻に考へさせられた、而して此世紀の大混亂と生き切る爲には強烈な人生觀と確乎たる社會觀世界觀を把持し

なければならぬと思つた。此のことは一個の人間の問題であるばかりでない大事業を達成せんとする民族の問題でもある、今次歐洲戦争に於けるドイツの戦争態度はこのことをよく教へて居る又戦争を通して表明された獨逸の科學精神に就いて見る、科學的であるといふことは計畫的であるとともに論理的であるといふことである、ドイツの技術の優秀なる定評があるが、此技術を実に用意周到に、第一次大戰の經驗を生かしつゝ軍事外交政治の上で計畫的に運用した此點が我々日本國民にとつて學ばなければならぬと、木村禮八郎氏は論述せられて居る、寔にさもなければならぬと思はせらるる。

× × × × ×

起き伏しの村廣し柿の處々  
 柿の村千羽雀の夕騒ぎ  
 南に寺あり柿の離落かな  
 我が藏のなくなりて柿残りけり  
 畑界争ひつゝの柿一樹  
 霜深し森離れ去る鳥のあり  
 初霜や垣なき庭のつま下り  
 霜踏んで英靈迎ふ僧のあり  
 芝植ゆる戦死の墓や霜柱

ハトウ